

# 911

第2回  
真相究明国際会議  
911 Truth International Conference  
IN TOKYO



# david ray

「9・11事件は謀略か」のデヴィッド・レイ・グリフィン博士来日記念

# griffin

2008 11.3 月

@三宅坂ホール 9:30開場 10:00開演 20:00終演予定

デヴィッド・レイ・グリフィン博士



藤田幸久

童子丸開

青木秀和



ベンジャミン・フルフォード

成澤宗男



森田玄

きくちゆみ

911真相究明の同志のみなさん



ペンタゴンにボーイング757型機は  
突っ込んでいない?

世界貿易センタービルの崩壊に爆薬が使われた?

ハイジャック犯は生きている?

飛行機が激突していない  
第7ビルがなぜ崩壊?

# welcome

## 第2回 911真相究明国際会議へようこそ！

連休中のお忙しい中、第2回911真相究明国際会議へ足をお運びいただきましてありがとうございます。911事件の公式説に異議申し立てをした米国の論客の中で最も尊敬され、信頼されているデヴィッド・レイ・グリフィン博士を本日ここにお迎えできることをみなさまと共に喜びたいと思います。

「911事件について、もしあなたの言っていることが本当なら、とっくにマスコミがとりあげているはず」と言われます。報道関係者からは「決定的な証拠がないから、取り上げられない」と言われ続けています。また「米政府の911委員会報告書を読んだのか」と言われたりもします(肝心なことや不都合なことが省かれているのを確認しました)。わたしたちにも真犯人はわかりません。でも「911委員会報告書」が政府の公式説だとすると、これは矛盾だらけです。こんな矛盾に満ちた911事件が再検証されることなく、今も戦争が続いていることが信じられません。

911事件の公式説に対して、一つ一つ証拠をあげて、粘り強く米国政府やマスコミに疑問の声を上げ続けているのが、デヴィッド・レイ・グリフィン博士です。『9・11事件は謀略か』(きくちゆみ/戸田清 訳)は米国で発売されるや否やベストセラーとなり、高い評価を得、その後も7冊の関連著作で米国政府、マスコミ、世論に影響を与え続けております。

特に彼の名著『9/11 Contradictions: An Open Letter to Congress and the Press (9・11の矛盾—議会とマスコミへの公開質問状)』は見事です(邦訳が待たれます)。今日いらした方は、911事件の公式説の矛盾点をはっきりと理解されるでしょう。また、『WTCビル崩壊の徹底説明』(社会評論社)の著者として、あるいは「バシルセロナより愛をこめて」として大活躍の童子丸開さんを海外より招聘できたことも、みなさまのご参加やサポートのお陰です。

さらに、第1回911真相究明国際会議でも発表し、その後も精力的に911の背後にある闇の世界を明らかにしているベンジャミン・フルフォードさん、「週刊金曜日」で当初から911事件を疑問視し、『9・11の謎』『続9・11の謎』を発表した成澤宗男さん、そして参議院議員として国会で「対テロ戦争」の原点である911事件の疑問点を追及し続けている藤田幸久議員もお迎えし、グリフィン博士も交えてパネルディスカッションをしていただきます。

わたしたちの願いはこの事件の闇に光をあて、嘘から始まった「対テロ戦争」に一刻も早く終止符を打つことです。「対テロ戦争」での米兵の死者数は5千人に達する勢いであり、911事件で亡くなった2,752名を遥かに超えています。イラクやアフガニスタンの犠牲者は正確な数字すらわかっていませんが、少なくとも15万人、多ければ100万人以上と言われており、その約7割が女性と子どもたちです。戦争は人を殺し、町を破壊し、苦しみと悲しみを生むだけ。テロを戦争で解決することは不可能です。若者たちのエネルギーやわたしたちの税金を戦争ではなく、もっと大切なことに役立ててほしいと願わずにはいられません。

今、国会で審議中の給油継続法案ですが、対テロ戦争のきっかけとなった911事件の矛盾を検証することなしに、「米軍用無料ガソリンスタンド」を続けさせていいのでしょうか。わたしたちの税金は米国の戦争を支援するより、国内の雇用、景気、環境対策、教育や福祉に使ったほうが建設的で、日本の国益にもかなうと思います。次の選挙ではこうしたことも考慮に入れて投票をしましょう。

イラクやアフガニスタンの、そして世界中の子どもたちが、大人たちに戦争をやめてほしいと願っています。大人は子どもへのいのちに対して責任があります。あなたの勇気と知恵とネットワークを対テロ戦争を終わらせるために活かしてくださいとうれしいです。

2008.11.03

於:三宅坂ホール(社会文化会館)

## Program

### 第1部

10:00~13:00

「911とつくられる戦争」映像と講演:きくちゆみ

「対テロ戦争と金融危機」:青木秀和

「911の物理的事実と真っ赤な嘘」

:童子丸開(バシルセロナより愛を込めて)

### 第2部

14:00~16:30

デヴィッド・レイ・グリフィン博士 基調講演

通訳:森田玄

### 第3部

17:00~19:30

パネルディスカッション



デヴィッド・レイ・グリフィン博士

藤田幸久

童子丸開

ベンジャミン・フルフォード

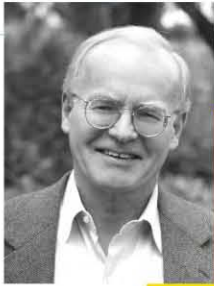
成澤宗男

コーディネーター:きくちゆみ

サイン会~終演予定20:00

# speakers profiles

出演者プロフィール



## david ray griffin

デヴィッド・レイ・グリフィン

1939年生まれ。1970年にクレアモント神学校で博士号を取得。師であるジョン・B・カブとともにプロセス神学の代表的な研究者として知られる。現在、クレアモント神学院名誉教授。退官頃から9・11事件をめぐる疑惑について調査と発言を始め、神学者らしい精緻さと謙虚さで、数々の著作を発表。

“The New Pearl Harbor (邦訳「9・11事件は謀略か」)”や“The 9/11 Commission Report — Omissions and Distortions”がベストセラーに。政府公式説を擁護する側からの攻撃に、反論本“Debunking 9/11 Debunking”を出すなど、決して妥協せずひたすら真実を追い求める姿勢が多くの支持を得ている。近著“911 Contradictions: An Open Letter to Congress and the Press”ではさらに明快で論理的な議論を展開、議会やマスコミの動向に影響を与え続けている。

## hidekazu aoki

青木秀和 (あおき・ひでかず)

1955年長野県駒ヶ根市生まれ。市民研究者。緑の共生社会研究所共同代表。常に平場(庶民の立場)の目線で社会の問題を観察し、高い分析能力と政策立案能力を発揮できる知識人(=ポリシー・インテレクチュアル)を理想とする。主著は、「社会の物理的基盤が崩壊してしまえば、どれほどお金があってもその威力を発揮することはあり得ない。社会がバランスを失うと、あっという間に無価値なものになってしまう」と警告する『「お金」崩壊』(集英社新書)。ほかに『公共政策の倫理学』(共著・丸善株式会社)がある。アントロピー学会、ゲゼル研究会に参加。中村敦夫・元参議院議員の政策ブレインを勤め、「みどり」の政治勢力の結集を呼びかける。



ベンジャミン・フルフォード  
(古歩道ベンジャミン)

1961年カナダ、オタワ生まれ。外交官の家庭に生まれ、若くして来日。上智大学比較文化学科へカナダのプリティッシュコロンビア大学を卒業。『日経ウィークリー』記者、米経済紙『フォーブス』の元アジア太平洋支局長などを経て、ノンフィクション作家として執筆、連載、講演などで活躍中。現在は日本に帰化している。英語、スペイン語、フランス語、イタリア語、ポルトガル語、北京語、日本語を話し、“青い目のサムライ”として世界の間に迫る。

●ベンジャミン・フルフォード公式サイト  
<http://benjaminfulford.com/>



## benjamin fulford

童子丸開 (どうじまる・あきら)

1950年福岡県生まれ。10数年前より南欧バルセロナ市に在住。2003年以来、ネット掲示板“阿修羅”にて「バルセロナより愛を込めて」のハンドルネームで数多くの長編の論文、9・11事件の事実の追及、スペイン語や英語の論文の翻訳を投稿、現在も継続中。また季刊『真相の深層』誌(木村書店)では、シリーズ「聖なるマフィア オプス・デイの正体を暴く」、3・11マドリッド列車爆破事件や9・11事件の真相追究の他、ジェームズ・ペトラス、イスラエル・シャミール、ミシェル・チョスドフスキーなどの著作家の英語論文や、スペイン・中南米作家のスペイン語論文を数多く翻訳し寄稿している。自著としては『「WTCCビル崩壊」の徹底究明』(社会評論社2007年)がある。

●どうじまるHP バルセロナより愛をこめて  
<http://doujibar.ganriki.net/>

## akira doujimaruru

## yukihisa fujita

藤田幸久 (ふじた・ゆきひさ)

1950年茨城県生まれ。慶応大学哲学科卒。難民を助ける会と紛争解決NGO国際MRA)等で世界45か国を訪問。各国でボランティア活動やカンボジア和平活動などを行う。1996年から衆議院議員当選2回。(東京選挙区)民主党国際局長などを務める。対人地雷やクラスター爆弾廃止に取り組む。イラク日本人人質事件やスマトラ沖津波などで現地での支援活動を行う。2007年参議院議員当選(茨城選挙区)。国会で9・11及びテロとの戦いの真相について質問を行い、日本政府は海外でテロに遭った日本人に対する救済措置の検討を始めた。現在、民主党ネクスト防衛副大臣。聖学院大学非常勤講師。

●藤田幸久WEBサイト  
<http://www2.y-fujita.com/cgi-bin/>



## muneo narusawa

成澤宗男 (なるさわ・むねお)

1953年新潟県生まれ。中央大学大学院法学研究科修士課程修了。『週刊金曜日』編集部企画委員。著書『ミッテランとロカール フランス社会党戦国史』(社会新報ブックレット)をはじめ、フランスの政治・軍事に関する論文多数。2002年から「9・11」に関するリサーチを始め、06年に『9.11の謎—世界はだまされた!?』08年に『続9.11の謎—アルカイダは米国のつくった幻だった』(株式会社金曜日)を発表。他に『「市民講座いまに問う」米軍再編と前線基地・日本』(共著・凱風者)など。 ●週刊金曜日 <http://www.kinyobi.co.jp/Recent>



# david ray griffin

## 911の矛盾—議会とマスコミへの公開質問状(未邦訳)

### 911 Contradictions: An Open Letter to Congress and the Press

要約と結論—911公式説は自己矛盾に満ちている。この本では、その25項目を検討した。

1) **ブッシュ大統領のサラソタ教室での行動に関して:**911の一周年の日にホワイトハウスが出した説明によれば、ブッシュは2番目の飛行機が世界貿易センターに激突したとアンドリュース・カードから聞かされた直後に部屋を出たことになっているが、それは、彼がそこにそのままずっと長いことを示すビデオ映像と報道と食い違う。

2) **チェイニー副大統領がホワイトハウス地下の大統領緊急オペレーションセンターに入った時間に関して:**911調査委員会によれば、彼は午前10時頃までそこに来なかったことになっているが、彼がペンタゴン攻撃以前に着いていたというノーマン・ミネタ運輸長官やチェイニー自身も含めた多くのひとの証言と食い違う。

3) **ペンタゴン攻撃前に侵入してきた飛行機について迎撃待機命令(スタンドダウン)を確認するものと思われる伝言に対するチェイニーの対応についてのノーマン・ミネタの報告に関して:**911調査委員会は、チェイニーがペンタゴン攻撃後長らく経ってから大統領緊急オペレーションセンターに入ったと述べ、またミネタの話を10時10分以降に起きたこととしていることで、ミネタの説明と食い違う。

4) **誰がすべての航空機の着陸命令を出したかという疑問に関して:**ノーマン・ミネタが(ディック・チェイニーの前で)その命令を出したと言うミネタとジェーン・ガービーの主張は、その決定はベン・スライニーによるものとする911調査委員会と食い違う。

5) **チェイニーが迎撃命令許可を出した時間に関して:**911調査委員会は、チェイニーは10時10分までそれを出さなかったと主張しているが、ユナイテッド航空93便の激突以前にそれを受け取ったとするリチャード・クラークと数人の軍幹部の報告と食い違う。

6) **その朝9時10分から10時の間のリチャード・マイヤーズ将軍の居場所に関して:**彼がキャピタルヒル(連邦議会)のマックス・クリーランドの事務所にいたというマイヤーズ自身の説明は、マイヤーズはペンタゴンでクラークのビデオ会議に参加していたというリチャード・クラークの証言と食い違う。

7) **9時10分から9時40分の間、ドナルド・ラムズフェルド国防長官がどこにいたかに関して:**ラムズフェルド自身の説明によると、彼は自分の事務所にいたことになっているが、それはラムズフェルドがペンタゴンの管理電話会議スタジオでリチャード・クラークのビデオ会議に参加していたというリチャード・クラークの証言と食い違う。

8) **テッド・オルソンが、その朝、77便がハイジャックされたことと妻のバーバラ・オルソンから2回電話を受けたかということに関して:**オルソンが受けたという主張は、ムサウィ裁判で提出されたFBI報告書と食い違う。それによれば、バーバラ・オルソンから司法省に掛けた電話は「不通」であ

ったこと、したがって「0秒間」の通話だった。電話が客席電話からだったというオルソンの主張は、77便にはそのような電話がないというアメリカン航空の報告と食い違う。

9) **アメリカン航空11便について軍が最初にFAAから通告を受けた時間に関して:**最初の通告は8時38分だとする911調査委員会は、通告が8時31分頃だとする軍の対応に関わっていた多くの当事者とのインタビューで構成された2002年のABC番組、そしてNEADへの最初の電話は8時30分前だったようだと言明しているFAAボストンセンター連絡将校のコリン・スコギンズと食い違う。

10) **ユナイテッド航空175便について軍が最初に通告を受けた時間に関して:**この便がサウスタワーに激突した9時03分までこの通告はなかったという911調査委員会の主張は、2003年5月22日のFAAのメモが示していること及び2001年9月18日のNORADのタイムライン(時間経過)とNMCCのモニターギュー・ウィンフィールド准将およびNORADのマイケル・ジェリネック大尉とはつきり食い違う。

11) **アメリカン航空77便のハイジャックを軍が最初に知らされた時間に関して:**軍はペンタゴンが攻撃されるまで通告されなかったという911調査委員会の立場は、NORADの9月18日のタイムライン、2001年9月15日のニューヨークタイムズ記事、FAAの2003年メモ、シークレットサービス副長官と食い違う。

12) **ユナイテッド航空93便について軍が最初に知らされた時間に関して:**軍はそれが激突するまでハイジャックされたことを知らなかったという911調査委員会の主張は、NORADの2001年タイムライン、(チェイニーを含む)2002年の幾人かのホワイトハウス関係者、リチャード・クラーク及び、ロバート・マー大佐、ラリー・アーノルド将軍、モニターギュー・ウィンフィールドを含む何人かの軍関係者と食い違う。

13) **米軍がユナイテッド航空93便を撃墜できる立場にあったのかという疑問に関して:**そうではないとする911調査委員会の主張は、ディック・チェイニー、リチャード・クラーク、ポール・ウォルフowitz副国防長官、及びロバート・マー大佐、リチャード・マイヤーズ将軍、ラリー・アーノルド将軍、モニターギュー・ウィンフィールド准将、マイク・ホーゲン少将、アンソニー・クイジンスキー少尉を含む何人かの軍関係者と食い違う。

14) **911のような攻撃がこれまで想定されていたかということに関して:**ホワイトハウス、ペンタゴン、911調査委員会が想定していなかったという主張は、多くの政府と軍関係者からの声明と911のようなシナリオに基づいた、いくつかの軍の演習の報告と食い違う。

15) **旅客機をハイジャックしたとされる男たち、とくにモハメッド・アタが本当に敬虔なるイスラム教徒だったのかということに関して:**911調査委員会のそうであったという主張は、彼らの性的行動とアルコールと麻薬使用の数多くの報告と食い違う。

16) **モハメッド・アタが残したとされる決定的証拠の発見場所の疑問に関して:**それが、ポートランドからボストンへの通勤便からアメリカン航空11便に移送されずにいた荷物から発見された

という911調査委員会の主張は、911以降の当初のニュース報道と食い違う。それによると、それはアタがローガン空港のパーキング場に残した三菱車のなかに発見されている。

17) **乗客たちが携帯電話で家族たちに旅客機にハイジャック犯たちがいたと通報したかという疑問に関して:**そのような通話があったとするマスコミと911調査委員会の主張は、乗客で家族たちに携帯電話で電話を掛けたひとはいなかったとする2006年のムサウィ裁判でのFBI報告と食い違う。

18) **オサマ・ビン・ラディンが911攻撃の責任者だとする確固たる証拠があるかということに関して:**そのような証拠があるかのようなブッシュ政権と911調査委員会の立場は、ビン・ラディンが911の責任者であるという確固たる証拠がないと言明して、911をビン・ラディンを容疑者とするテロ行為のひとつとして、リストにのせていないFBIと食い違う。

19) **ハニ・ハンジュールがアメリカン航空77便をペンタゴンまで操縦できたのかということに関して:**彼がそうしたというホワイトハウスと911調査委員会の主張は、アメリカン航空77便が最後の数分間に辿ったとされる軌道をとくに考えれば、彼は大型ジェット旅客機どころか、単発エンジン機さえ操縦する技術をもっていなかったという、主要マスコミで報道された様々な証拠と食い違う。

20) **ペンタゴンのCリングにできた穴の原因に関して:**それがアメリカン航空77便の機首によるものだというドナルド・ラムズフェルドとリー・イービーの主張は、航空機の前部は衝突の際に分解するというペンタゴンビル仕様書と、穴は(機首ではなく)その代わりに飛行機の着陸ギアでできた主張するポピュラーメカニクスと食い違う。

21) **ペンタゴン攻撃時の頃、ホワイトハウス上空で見られた飛行機の正体に関して:**軍の飛行機ではないとする軍の否定は、それが、元軍幹部も同意しているように、E-4B空軍機であったことを示すCNNの飛行機の映像と食い違う。

22) **ルディ・ジュリアーニがツインタワーが崩壊することを知っていたことに関して:**タワーが崩壊することを予想する歴史的根拠があるという彼の主張は、現場の数多くの専門家たちとそして明らかにすべての消防士たちと食い違う。

23) **ツインタワー内部で、火災が原因で起こりえるものとジェット燃料の爆発以外で、爆発があったかどうかに関して:**そのような爆発は起こらなかったというNISTと911調査委員会の主張は、多くの消防士、救急医療隊員、WTCの従業員、911およびその翌日のテレビと新聞の報道と食い違う。

24) **WTC 7内部で、火災が原因で起こりえるもの以外に、爆発があったかどうかに関して:**そのような爆発は起こらなかったとするNISTと911調査委員会の主張は、ジャーナリスト、救急医療隊員、警官、そしてビル内にいたふたりの市職員と食い違う。

25) **WTCの瓦礫中に、スティールが溶解したという証拠があるかどうかに関して:**NISTのそのような証拠はないという主張は、現場の多くの専門家と、WTC7とタワーのひとつから回収したスティールを調査し、それが硫化、酸化、蒸発した証拠があると報告した3人の科学者と食い違う。

911からまもなく、ブッシュ大統領がアメリカ国民、多分とくに議会とマスコミに対してであろうが、「9月11日の攻撃についてのとんでもない陰謀説に惑わされてはいけない」と言った。そのような説は当然否定すべきだと私たちはたぶん同意すると思うが、「9月11日の攻撃についてのとんでもない陰謀説」という文句の意味は、そのまま額面どおりに受け取るわけにはいかないだろう。

人はこれに、「馬鹿げた」という言葉は、911についてのある陰謀説をほかのものと区別するには適切ではないと反応するかもしれない。なぜなら、そのような説はそもそもすべてとんでもないからである。しかし、ブッシュが言う911の公式説そのものが陰謀説である。陰謀とは単に「ある不法で騙す(だます)行為、あるいは悪事の行為を共同で行うことに同意する」ことである。ある事件についての陰謀説とは、したがって、そのような約束事から生じた説にすぎない。

911攻撃の公式説によれば、オサマ・ビン・ラディ

ンと複数のアルカイダのメンバーが関わった陰謀だとされている。したがって、公式説はひとつの陰謀説にすぎないのである。

したがって、どうしてそのような説が「とんでもない」ものになるのか問う必要がある。なにがその判断基準なのか？

科学論から言えば、よい理論と悪い理論とを区別するふたつの判断基準がある。まず第一に、理論は、そこに言われている事実と矛盾していないこと。911の公式説の批判者の多くは、この基準を満たしていない。例えば、2機の旅客機の衝突による破壊と火災では、なぜツインタワーが崩壊したのか説明できないではないかと主張する。

しかし、多くのジャーナリストと政治家は、飛行がビルに衝突したらビルはどうなるかと、スティールが高温に熱せられるとどうなるかといった技術的なことが関わってくる問題を判断する資格がないと感じている。

しかし、よい理論のもうひとつの基本的基準は、

いかなる専門的技術を必要としない。理論は首尾一貫し内部矛盾があってはならないというだけである。ある説がその内部で食い違いを含んでいたら、それは受け入れられない説である。それがそのような食い違いを非常に多く含んでいたら、それは「とんでもない」説になるであろう。

911に関する公式陰謀説には、少なくとも25の食い違いがあるので、明らかにとんでもない説である。しかし、この説が、ふたつの国への攻撃を正当化するために利用され、その結果として、何千のアメリカ人をふくむ、百万以上の死がもたらされたのである。この説はまた、不法な勾留、拷問、裁判所からの令状なしのスパイ行為、人身保護令状請求権の否定といったアメリカ憲法を基本的になし崩しにすることの正当化にも利用された。

911の公式説という名の下に正当化されてきた違法行為を考えると、議会とマスコミはこの公式説にある多くの食い違いが、実は偽りなのか問いたたす必要がある。(訳: 森田玄)

(訳注) \*1 NEAD=北米航空宇宙防衛司令部の北東防空部門 \*2 FAA=連邦航空局 \*3 NORAD=北米航空宇宙防衛司令部 \*4 NMCC=国家軍事指揮センター \*5 NIST=米国標準技術局

# akira doujimaruru

## 9・11の大嘘: 全体主義と戦争への「青信号」一童子丸開

我々はいま、どんな世界に住んでいるのか？ 自由か？ 平和か？ 民主主義か？

日々を必死に生きる人々にとって、そんなことを考える余裕など無く「自分とは無関係なこと」なのかもしれない。

そうしながらいつの間にか、しぼり取られしぼり付けられ、文句を言うこともできず他人の目と排除と暴力を恐れながら、ひたすら耐えて押し流されるしかない、そんな世界に放り込まれるのかもしれない。

日本人はつい何十年前前に《国家による大嘘の公式発表》でひどい目にあわされた苦々しくも貴重な経験を持つ。

それは政府機関だけでなく報道機関や公的・私的組織の総ぐるみで押し進められた、一国を全体主義と戦争と破滅へと追いやる道だった。

我々が歴史から学ばなければ、毎日の生活に追われて何も見ず考えもしない間に、その歴史が繰り返される。どの国でも《国家による大嘘の公式発表》の有無を常に国民が監視しなければ、民主主義や平和や自由を維持することは不可能だ。

そしていま、明々白々な大嘘が堂々と公式に発表されほとんどの報道機関と多くの公的・私的組織による《事実の隠蔽》《信奉の強要》《疑問の排除》が行われている。

我々にとってこれはすでに「黄信号」を乗り越して「赤信号」なのだ。

大型旅客機が墜落して機体が「消えてなくなり」草が元気にはえている箇所を「激突の跡である」とするあからさまな大嘘が「真実である！」と告げられる。(写真1)

上に何も乗っていないビルから何万トンもの物体が100~200mも激しく横に吹き飛ばされる現象を「重力の動きである」というミエミエのペテンが、この7年間、日本を含めた世界各国を支配し殺人と破壊を正当化している。(写真2)

疑問は報道から締め出され公的・私的な組織と一部の個人によって非難され拒否され続ける。

9・11事件は決して「痛ましい他人事」ではない！ 我々自身に突きつけられた問題なのだ！

全体主義と戦争政策に「青信号」をともらせ、そしてそれを推し進めそれを支持する国と社会に我々自身が放り込まれたことを示す、巨大な警告なのだ。我々は自分たち自身のために本当のことを知らねばならない。手遅れにならないうちに。

国民の過半数が事実を正確に知るようになればこの地獄への行軍を食い止め押し戻すことができる。事実を広めよう！



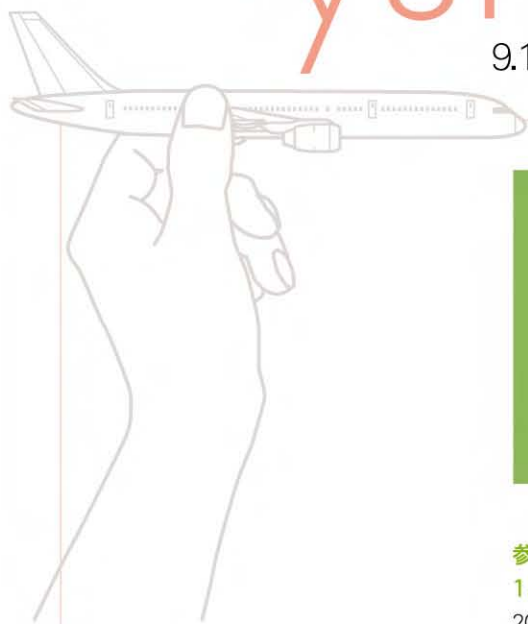
1



2

# yumi kikuchi

9.11とつくれる戦争—きくちゆみ



あれから7年。「対テロ戦争」が始められるきっかけになった2001年の「9・11テロ事件」は、今も多くの謎を残している。911事件は本当に報道されている通り「オサマ・ビンラディンが首謀者で19人のイスラム原理主義者が実行したテロ」なのか？米国の外交政策にも焦点をあて、戦争が「つくりだされていく」様子を、映像を交えて検証する。

## 参考映像

### 1. 藤田幸久議員の国会質問

2007年1月10日、参議院外交防衛委員会にて日本で初めて911事件の公式発表に疑問を呈した藤田幸久民主党議員。その国会中継はNHKで放映された後、外国語字幕がつけられネット上で世界中に転送され、2007年2月26日に欧州議会で911事件に疑問をもつ各国の国会議員と専門家が一堂に会する契機となる。

### 2. 『911ボーイングを捜せ』(ダイジェスト版)

ミズーリー州の小さなラジオ局「The Power Hour」が、911事件当日の生中継のテレビ映像と米国で発売された雑誌や本を元に制作した。ボーイング757型機は本当にペンタゴンに突っ込んだのか？世界貿易センタービル崩壊は爆弾のせいなのか？第7ビルは解体されたのか？公式説との矛盾を浮き彫りにする。

### 3. 『Confronting the Evidence:911を再調査せよ』(ダイジェスト版)

米国のビジネスマンのジミー・ウォルターが私費6億円を投じた「ReOpen 911(911を再調査せよ)」の作品。2時間のDVDを11カ国語で観ることができる。

### 4. 『911目撃者』(ダイジェスト版)

事件当日、カメラマンのリチャード・シーゲルがハドソン川の対岸から偶然捉えた世界貿易センタービル崩壊までの一部始終には、公式説と食い違う映像が記録されていた。ニューヨークの最高歴史ドキュメンタリー賞受賞。

### 5. 『911の嘘をくずせ:ルースチェンジ・セカンドエディション』(ダイジェスト版)

ニューヨークの20代の若者3人が制作した話題作。インターネットで無料配信し、世界で最も多くの人に観られた911作品となる。1962年にキューバ侵攻のために立案されたノースウッズ作戦と911事件の類似点は偶然か？解体爆破としか思えない世界貿易センタービル崩壊の映像に驚嘆する。

### 6. 『真実を求める遺族たちのPress For Truth』

夫や子どもを911事件で失った4人の女性が出会い、悲しみを乗り越え真相を究明していく。911事件を陰謀とは思わない層にも共感を広げている。

### 7. ベンジャミン・フルフォード『6年目の真実』より

英国BBC放送が第7ビルの崩壊を実際の崩壊よりも前に報じてしまったのはなぜか。

### 8. アロン・ロッソのインタビュー

ニコラス・ロックフェラーは911事件の11ヶ月前に、イラクとアフガニスタンに侵攻するきっかけとなる"ある事件"が起こる、とハリウッド映画監督のロッソに伝えた。

### 9. 『戦争中毒』予告編

アメリカがどうしても戦争を始めてしまうのかをコミカルに描いたマンガ。現在、アニメーション映画化が検討されている。

### 10. WWJD

神さまだったら何をしますでしょう？—イラクで犠牲になっている子どもたちのことを15歳の少女が映像と音楽で訴える。

### 11. No More Broken Promises

10と同じ15歳の少女が「もう約束を破らないで、兵士を家に返して」と米兵と家族に焦点をあてた作品。

### 12. 傷ついた米兵

イラク戦争で傷ついて戻ってきた米兵の数はすでに3万人を越えている。彼らの姿をマスコミで観ることはないが、中南米のサイトでは観ることができる。

※時間の関係で上記から10本を上映しながら解説します。

2~6のDVD5本と「911ボーイングを捜せ ガイドブック」「911マスターキーから何が見える」2冊のセットを「911特別セット」として1万円で販売します。ご購入の方は当日ロビーで入手するか、または郵便振替で下記まで代金をお振り込みください。  
「00110-1-144224/ハーモニクスライフセンター」



## きくちゆみ プロフィール

東京下町生まれ。お茶の水女子大学卒。環境と平和をテーマに書き、訳し、話し、企画する。マスコミ・金融界を経て90年より環境問題の解決をライフワークに。自給自足を目指して南房総に移住し「ハーモニクスライフセンター」を運営。9・11事件をきっかけに「グローバルピースキャンペーン」を立ち上げ、米紙への意見広告やハリウッドのビルボードを実現し、「戦争中毒」を翻訳、「テロリストは誰?」「911ボーイングを捜せ」「911の嘘をくずせ」の日本語版を制作して日本に紹介する。著書に『地球と一緒に生きる』『ハーモニクスライフ 自然派生活のすすめ』『バタフライ』他。現在、平和省プロジェクト代表、東京平和映画祭プロデューサー。2006年10月に日本で初めての「911真相究明国際会議 in 東京」を成功させる。

●きくちゆみのブログ  
<http://kikuchiyumi.blogspot.com>

# 911 related books

「9.11」をより深く知るための資料リスト

## ●前提理解用●



戦争中毒 ー1  
ジョエル・アンドレアス  
(監訳:きくちゆみ)  
合同出版 2002/10

闇の世界金融の  
超不都合な真実 ー2  
菊川征司  
徳間書店 2008/6

金融のしくみは ー3  
全部ロスチャイルドが作った  
安部芳裕  
徳間書店 2008/9

(DVD)テロリストは誰? ー4  
フランク・ドリル編集  
(監訳:森田玄・きくちゆみ)  
グローバルピースキャンペーン

(DVD)IRAQ FOR SALE ー5  
ロバート・グリーンウォルド 監督  
(字幕翻訳:協浜義明)  
人民新聞社

アメリカ経済のユダヤ・パワー  
佐藤唯行  
ダイヤモンド社 2001/10

A Different Nuclear War  
-Children of the Gulf War  
森住卓  
劣化ウラン弾禁止を求めるグローバル・アソシエ  
ション 2002/8

アメリカはなぜイスラエルを  
偏愛するのか  
佐藤唯行  
ダイヤモンド社 2006/11

エコノミック・ヒットマン  
ジョン・パーキンス(訳:古澤秀子)  
東洋経済新報社 2007/12

新版 300人委員会:  
上・支配される世界/下・陰謀中枢  
の正体  
ジョン・コールマン博士(訳:太田龍)  
成甲書房 2008/7

(コミック)  
実録 アメリカの陰謀スペシャル  
mashroom.jp  
宙(おおぞら)出版 2008/2

(コミック)  
アメリカの陰謀スペシャル2  
mashroom.jp  
宙(おおぞら)出版 2008/9

(コミック)  
アメリカの陰謀スペシャル3  
mashroom.jp  
宙(おおぞら)出版 2008/9



## ●9.11真相究明もの●



仕組まれた9.11ーアメリカ  
は戦争を欲していた ー1  
田中宇  
PI-P研究所 2002/4

暴かれた9.11疑惑の真相 ー2  
ベンジャミン・フルフォード  
扶桑社 2006/9

9.11マスターキーから  
何が見える? ー3  
憲法9条メッセージ・プロジェクト  
2007/1

9.11事件は謀略か「21世紀の真  
珠湾攻撃とブッシュ政権」 ー4  
デヴィッド・レイ・グリフィン  
(訳:戸田清・きくちゆみ)  
緑風出版

9.11テロの超不都合な真実 ー5  
菊川征司  
徳間書店 2008/8

続9.11の謎ー「アルカイダは米  
国がつくった幻だった」 ー6  
成澤宗男  
週刊金曜日 2008/9

(DVD)911ボーイングを捜せ  
ー航空機は証言する ー7  
Power Hour Productions  
日本語版 ハーモニクスプロダクション  
(監訳:森田玄・きくちゆみ)

(DVD)911の嘘をくずせ ー8  
- LOOSE CHANGE 2ND EDITION  
A LOUDER THAN WORDS LLC PRODUCTION  
日本語版 ハーモニクスプロダクション  
(監訳:森田玄・きくちゆみ)

(DVD) 真実を求める遺族たちの  
9/11 PRESS FOR TRUTH ー9  
911遺族 & PRESS FOR TRUTH  
人民新聞社

WTCビル崩壊の徹底究明ー  
破綻した米国政府の「9.11」公式説  
童子丸開  
社会評論社 2007/9

911事件の真相と背景  
三浦秀明・木村愛二  
木村書店 2005/10

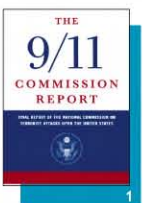
9.11イラク戦争コード  
木村愛二  
社会評論社 2006/12

9.11テロ捏造ー日本と世界を騙  
し続ける独裁国家アメリカ  
ベンジャミン・フルフォード  
扶桑社 2006/7

季刊「真相の深層」  
2004冬号~2008秋号  
木村書店 2004/12~2008/9



## ●米政府資料・真相究明系否定もの●



THE 9/11 COMMISSION  
REPORT ー1  
9/11 COMMISSION  
W.W Norton & Company, Inc.  
2004/8

陰謀論の罠ー9.11テロ自作自  
演はこうして捏造された ー2  
奥菜秀次  
光文社 2007/4

マンハッタン9月11日  
ー生還者たちの証言 ー3  
ディーン・E・マーフィー(監訳:村上由見子)  
中央公論社 2002/8

9.11オフィシャル・レポート  
シド・ジェイコブソン/アーニー・コロ  
ン(監訳:福井晴敏)  
イースト・プレス 2007/9

9/11委員会レポートダイジェスト  
同時多発テロに関する独立調査委員会  
(訳:松本利秋・ステファン丹沢・長田喜文)  
WAVE出版 2008/5

ここにご紹介したDVDと  
多くの書籍は、  
グローバルピースキャンペーン  
ストアでご購入できます。

<http://store.globalpeace.jp>

●お問い合わせ(9:00~18:00)

ハーモニクスライフセンター内  
GPCストア

Tel.04-7097-1011

めざせ、情報武装。



**at+link**

スタート 12 年、8,500 台超。  
国内 NO.1 の専用ホスティングサービス

広告の縛りを受けるマスコミが  
本当のことを伝えない、伝えられないなか  
事実と真実の多くは独立系出版とインターネットの中での  
存在するといってもいいでしょう。

いろいろな人たちの努力と  
インターネットの情報伝達力のおかげで  
20 世紀にはほとんど知られていなかった覇権国家の真実  
だいぶ知られるようになってきました。

情報の操作・捏造と、事実・真実の伝達。  
この本当の意味での情報戦も、  
この先、数年が勝負どころではないでしょうか。

求められるのは伝達力。

インターネットはあなたに情報発信の力を与えてくれます。  
そして、at+link のインキュベーションプログラムは  
あなたの情報武装をサポートします。

力強い未来に向けて  
専用インターネットサーバの  
運用ノウハウを身につけてみませんか？

**真実はインターネットで知れわたる。  
あなたに情報発信力を。**

**at+link eBusiness インキュベータ**

初期費用および半年間の利用料無償（無償提供価値 30万円程度  
※ 無償期間終了後の継続義務や、非継続時の払込み費用等は一切ありません。

詳しくはこちらへ >>> <http://www.at-link.ad.jp/at/incubator>

RHEL 搭載の専用サーバが半年間 無条件で無償？

eBusiness インキュベータ

検索

**<http://www.at-link.ad.jp>**